Next Action

邦楽ルネッサンス
11月22日@サンポートホール高松

福永千恵子 箏リサイタル
12月3日@浜離宮朝日ホール

海の仲間の音楽会
12月19日@東京文化会館小ホール

KOTO-NOBU-LOG.

ハッピーハロウィン！

すっかりクリスマス、ヴァレンタインデーとともに日常イベントに定着しているハロウィンが近いですね。

元来のハロウィンは、生贄を捧げたり、夏と冬の季節の変化を意識する宗教的行事だったそうです。さて本日は、日本歌曲協会主催の第15回『邦楽器とともに ～誕生百年！十七絃の響きにのせて～』の公演日で、それまでの公演スケジュールなど重なり、ニューズレター準備をすっかり忘れ、帰宅して書き始めました丶(￣д￣;)ノ=3=3=3

公演ひきこもごも

今月は公演やそれに向けたリハーサルスケジュールも戻り始め、なんだかコロナ禍以前のようなスケジュールを過ごしていました。
ただし、今の時期にはありがたいような、哀しいような、そんな相反する気持ちも湧いたひと月でした。

特に今月は、インターネットなどで配信するための映像コンテンツの撮影収録が複数回ありました。複数の固定カメラで撮影、あるいは固定カメラとカメラマンが歩き回って撮影の併用など各現場で撮影作業は違いましたが、いずれも1曲を複数回撮影するため複数曲のプログラムの収録は1日がかりの作業でした。

そんな中で印象的だった経験は、オンラインでのライブ配信でした。聴き手と出演者が会場で対面していた形での公演の際は、その場の客席の雰囲気みたいなものが漂っていたり、反応が立ち上っていたりするのですが、ライブ配信の現場ではスタッフ、出演者、カメラのみになるので、自分自身の音や音楽にどんな反応が起こっているのかが感じ取れず、なんだか妙な力みが自分のなかで空回りしていました。

ここで不思議だったのが、スタッフとカメラしかない環境は撮影収録もライブ配信も同じであるにも関わらず、それぞれの場面で自分自身の中で意識しているものが違っていたことでした。初めてレコーディングに参加した時の緊張度合いの経験から振り返れば、ライブ配信の時に感じていた未知感も経験による習慣で変化していくものなのかもしれません。

これからは邦楽界の中でも、こういったICTを活用したあり方が日常的になるでしょう。また演奏家が舞台上で感じ取っていたような客席の反応も、オンライン上に流れてくる視聴者からのライブ・メッセージに替わり、それを配信現場で同時に確認しながらの双方向性でライブ対応するのが当たり前になる日も近いのかもしれません。
…書いているうちに、日付が変わり30日に、、お後がよろしいようで…